JMLA統計からみるコロナ禍の図書館サービス

大谷　裕（東邦大学医学メディアセンター）

目的と方法

(1)目的

・コロナ禍が，ヘルスサイエンス分野の図書館サービスにどのような影響をもたらしたか，統計データを基に検討を行う。

(2)方法

・データ：日本医学図書館協会 会員統計

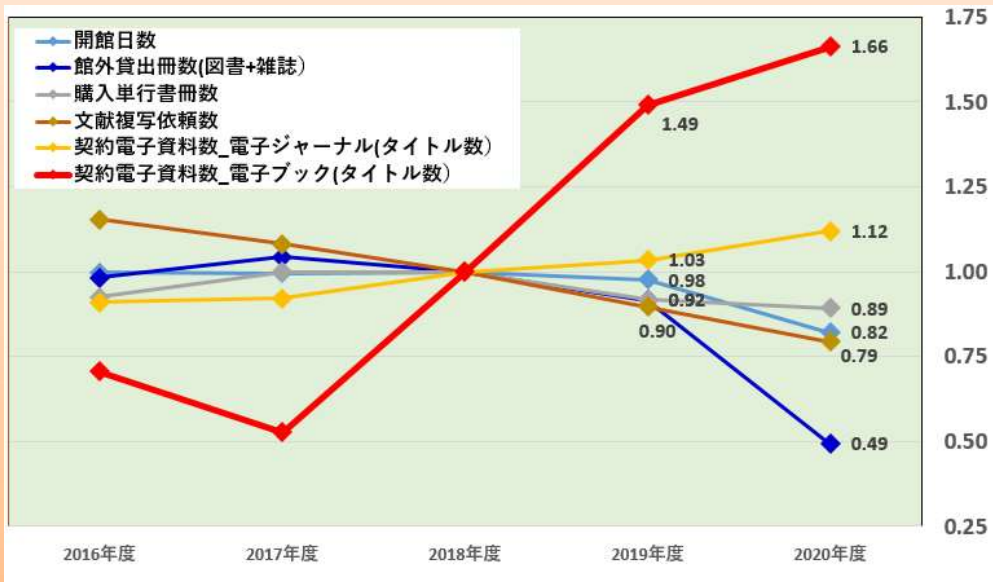
・集計年度：2016年度～2020年度

・集計項目：開館日数，館外貸出冊数（図書＋雑誌），文献複写依頼数，購入単行書数，契約電子ジャーナルタイトル数，契約電子図書タイトル数

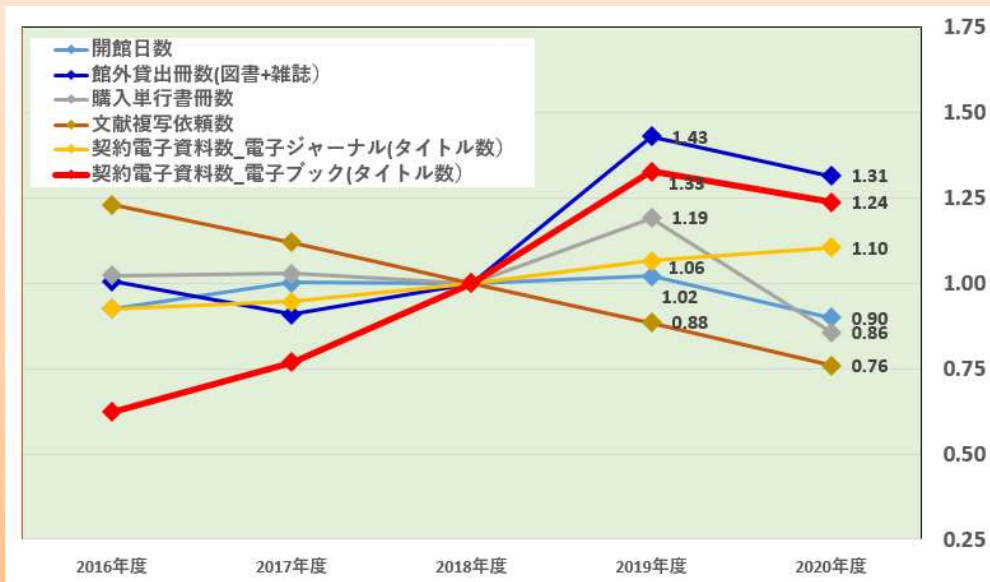
・指標：2018年度の会員種別平均値を1として，2016年～2020度まで数値を比率で示した。
※会員種　A：大学・学部の図書館，B：病院，研究所等の図書館

結果

A：大学・学部の図書館



B：病院，研究所等の図書館



まとめ

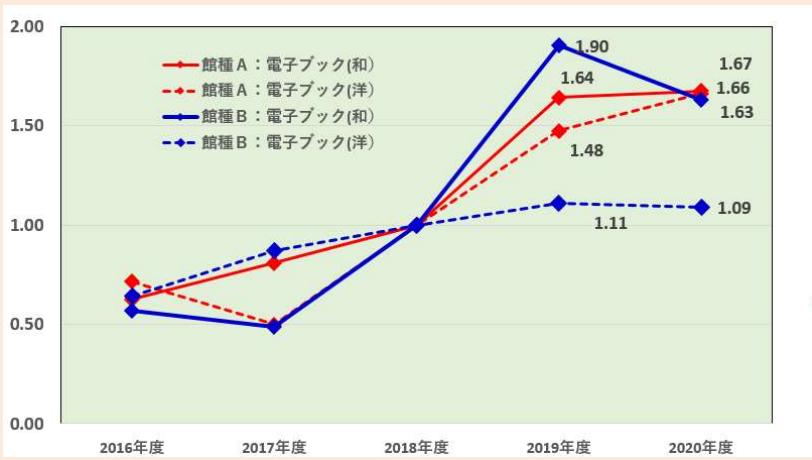
(1)コロナ禍の影響がうかがえたもの

・**開館日数**　A館　：　2019年度は0.98，2020年度は0.82と，ともに減少していた。各館ともに閉館や入構制限が行われた様子がうかがえた。
B館　：　2019年度：1.02と微増，2020年度は0.90と減少していた。

・**館外貸出冊数（図書＋雑誌）**
A館　：　2019年度は約1割減（0.92），2020年度は約半減（0.49）と，開館日数の減少を上回る形で減少していた。
B館　：　2019年度は1.43，2020年度は1.31と，ともに増加していた。図書館が同時貸出冊数を一時的に増加させたり，利用者が閉館に備え多くの資料を確保したりするなどの動きがあった可能性が考えられる。

・**購入単行書数**
2020年度はA館0.89，B館0.86と，ともに減少していた。テレワークの導入などで，選書作業に十分な時間が取れなかった可能が考えられる。

・**電子ブック契約タイトル数**
A館，B館ともに従来から増加傾向であったが，2019年度はA館1.49，B館1.33と大きく増加していた。来館できない利用者へ向けて，電子ブックの導入が加速したと考えられる。さらに和洋別の電子ブック契約タイトル数について，同様の指標を右図に示した。A館は和洋ともに増加していた。B館は和が増加していた。



(2)コロナ禍の影響が特にうかがえなかったもの

・**文献複写依頼数**　：　A館，B館ともに経年的に減少していた。

・**電子ジャーナル契約タイトル数**　：　A館，B館ともに経年的に増加していた。

第37回　医学情報サービス研究大会　2022年7月16日（土）～17日（日）
いわて・オンライン